



熱海の仕事場にて（撮影：加藤 孝）

五年ぶり新シリーズ、 新古着屋総兵衛誕生！

日本一遅いという熱海の紅葉もようやく色付き始めた。
熱海に仕事場を構えて八年目に入った。出版界の落ちこぼれ作家がなんとかこの分野で席を得て、書下ろ

佐伯通信

2011年1月（平成23）
創刊号
発行
佐伯泰英事務所
担当／双葉社
禁・無断転載

し文庫時代小説だけで百五十冊を越えた。月に一冊刊行を目標にひたすら走ってきた結果だ。量産小説家ではないのかという自嘲の思いはなくもない。はたまた文庫書下ろしは出版界に活気を与えたのか苦境に立たせたのか。そして今新たに電子書籍の大波が出版界と書店を見舞っている。
私自身、電子書籍への参入は最後の最後でよいと考えている。その前にやるべきは作家、出版社、取次、書店、読者を結ぶ既存の出

佐伯泰英／近刊のお知らせ

3月 10日発売予定	2月 9日発売予定	1月 28日発売予定
『光文社文庫』 吉原裏同心 14 『決着』 〔佐伯通信〕第2号が入ります。 〔初版、初回出荷分限定〕	『幻冬舎時代小説文庫』 酔いどれ小籐次留書 15 『新春歌会』 ※『酔いどれ小籐次留書』（新装版）1巻～13巻を、2月9日に『参刊行予定』	『新潮文庫』新シリーズスタート 新・古着屋総兵衛 1 『血に非ず』 古着屋総兵衛影始末〔完全版〕 刊行スタート ※以後2月3月Ⅱ各巻、4～8月Ⅱ各巻、毎月28日に続巻を刊行予定

佐伯泰英事務所の公式ホームページ、近日開設予定。

この「佐伯通信」は、佐伯泰英事務所が下記出版社の協力のもと年七回発行いたします。

（株）双葉社、（株）光文社、（株）講談社、（株）祥伝社、（株）幻冬舎、（株）新潮社、（株）角川春樹事務所

「それは聲音に訊いて」

（株）双葉社 文庫管理編集部
「居眠り聲音 江戸双紙」担当

奥山康浩



「いや～、なんかさ、思ってもみなかった方へ行っちゃったんだよね」

本書『居眠り聲音 江戸双紙 姥捨ノ郷』の原稿を頂戴した時、佐伯先生が発した第一声である。日焼けした二の腕をボリボリと掻きながら、照れ隠しのような笑みを浮かべておられたのが印象的だ。

物語がどう動いたかは本書を読んでものお楽しみだが、主人公の坂崎聲音というこの御仁、この先も何処に行こうとするのか、読む側にとっては全く油断がならない。西へ行くのか北へ行くのか、はたまた江戸へと戻るのか――。担当編集ですらそうなのだから、読者諸氏にとっては尚更のことだろう。うっかりすれば、“あれ、いつの間にこんなところに居るの？”なんてことにもなりかねない。そうならぬよう、次の新刊発売を教えてよと言われると、この『佐伯通信』の発売予告に載るのを待って下さいと言わざるをえないのが誠に心苦しいところ。

物語がどう展開していくかは著者のみぞ知る。だがそれを佐伯先生に尋ねたところで、ニコニコしながらきっこう呟くに違いない。

「それは聲音に訊いて」

シリーズ1200万部！
居眠り聲音
江戸双紙
①～③⑤ 双葉文庫
<http://inemuriwane.jp/>

版文化の流れを自分なりに点検することだ。これまで祥伝社文庫に始まり、ハルキ文庫、光文社文庫、双葉文庫、幻冬舎文庫、講談社文庫とシリーズものを中心に執筆を展開してきた。このところ新シリーズを手がけることができなかった。文庫書下ろし百冊目を上梓したころ、体調をくずしてきつかけを失ったせいだ。久しぶりに新しい連作を始める。古着屋総兵衛影始末シリーズの再開である。第二部は時代設定も登場人

物も大きく変えての新・古着屋総兵衛の幕開けだ。年齢が年齢だ、おそらく私自身、最後の連作となるだろう。そこで新作の版元である新潮社に旧作十一巻の再刊を願い、大幅に手を入れた。再刊にあたり、とことん不備を正した。新・古着屋総兵衛の記念すべき第一作『血に非ず』が旧作第一巻、第二巻と同時に新年早々に書店に並ぶ。

然の熱海だよりや三か月先までの近刊予告や担当編集者の声を掲載する。
七社持ち回りで編集協力を仰ぎ、年七回発行する予定だ。職人作家からの書店と読者諸氏へのささやかな情報提供だ。同時に佐伯泰英事務所のホームページを近々立ち上げることにした。『佐伯通信』とともにご愛顧のほどをお願いしたい。

「佐伯通信」第2号は、3月10日発売予定の『吉原裏同心14 決着』（光文社文庫）に入ります。